

## 悠久の歴史を持つ薬用酒

『医』の旧字体である『醫』は、本来は「病をかばう薬酒」という意味を表し、やがてそれを使う者を医者と呼ぶようになりました。このように、薬用酒は悠久の歴史を持っています。中国では、新石器時代晩期の遺跡から醸造に使われたとされる陶製の酒器とみられるものが出土し、殷代甲骨文の中に「鬯其酒」と書かれています。この「鬯」は香酒、すなわち『酒に鬱金を浸して作った鬱金香を黒きびに加え醸した酒』を指し、神に捧げる酒であるとともに薬酒の一種とも解釈されています。

### ■酒は百薬の長

食前酒や薬用酒などをはじめ、適量のお酒は体によいものです。明代の一大博物書でもある《本草綱目》は、酒について「酒は天の美禄なり。少量のめば血を和し氣を行らし、神を壮にし、寒を禦ぎ、愁いを消し、興を遣る。痛飲すれば神を傷り、血を耗し、胃を損じ、精を亡い、痰を生じ火を動ずる」と説いています。また、漢方薬の当帰芍薬散や八味丸などは、酒と一緒に飲むと作用を強め、胃にもたれるなどの副作用を減らすとされています。

#### How to make Medical Liquor 薬用酒の作り方

##### ◎用意するもの

- ①密閉できるフタ付きの広口ビン(1.8ℓ用)  
※ビンは熱湯で洗い乾燥させておきます。
- ②ホワイトリカー(焼酎)、ウイスキーやブランデー(果実酒用) 1.8ℓ  
ホワイトリカーの場合、生薬を材料とするときは25度、生の果実を材料とするときは水分が多く含まれるので35度を用います。
- ③材料  
ホワイトリカー 1.8ℓの場合、100~200gを目安とします。

##### ◎仕込み方

- ①広口ビンに薬用酒材料を入れ、ホワイトリカーなどのお酒を注ぎます。

- ②ふたをして冷暗所に保存します。  
(仕込んで2~3日は1日1回程度ビンを軽くゆすって材料とお酒がよく混ざるようにします。)
- ③2~3ヶ月ほどで完成です。

##### ◎飲み方

1日1~2回、盃に1~2杯を目安にお飲みになるのが適当です。

##### ◎飲みやすくするために

ホワイトリカーや焼酎はアルコール度数が高いので、ストレートで飲みにくい場合には、水割り、オンザロック、果汁、スポーツドリンク、ウーロン茶など、お好みにあわせてお飲みください。その他、甘味料として、氷砂糖、グラニュー糖、水飴などを加えてもよく、特に純粹ハチミツは最適です。

### 書籍紹介

#### 漢方臨床320例

日常外来診療の視点から



著者 中川良隆  
出版社 源草社  
発行年月 2007年11月  
価格 6,300円(税込)

『漢方診療の原点』の著者による“私の漢方”の粹組み。呼吸器疾患の“かぜの漢方治療”、消化器疾患の“胃腸疾患の漢方治療”“肝疾患の漢方治療”、耳鼻科領域の“アレルギー性鼻炎、花粉症の漢方治療について”を概説。特に症例毎の索引事項に“臨床の視点”を加え、その充実を図ると共に、“私の漢方”の一面を示した。